

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	琉球大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	リュウキュウダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F147110111736
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	沖縄県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	キャリア関係特別講義II(中期インターンシップ)
	学部・研究科等名	グローバル教育支援機構 キャリア教育センター
	担当教職員名・役職	本村 真：教授、屋嘉部一美：特命一般職員、野澤文人：係員
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	78
	受入企業等数	27
	受入企業等名	新光産業(株)、(株)ヤブサチ、(株)IMI CORPORATION、日本流通システム(株)、(福)トゥムヌイ福祉会、(株)ファーマーズ・フォレスト、(独)日本貿易振興機構、Links(株)、(独)国際協力機構沖縄センター(JICA沖縄)、ザ・ホテルエ・グループ那覇(株) 沖縄ハーバービューホテル、(株)ケーエスジャパン 沖縄支社、南西石油(株)、安藤証券(株)、(株)アイセック・ジャパン、E Y 税理士法人、全研本社 (株)、ホテルモントレ(株) ホテルモントレ沖縄 スパ&リゾート、(特非)エンカレッジ、大同火災海上保険(株)、琉球銀行、(株)プロジェクトアドベンチャー・ジャパン PANZA沖縄、琉球海運(株)、前田産業ホテルズ(株) 前田産業)、Treeful Treehouse Resort、オリックス・ビジネスセンター沖縄(株)、シティグループ、(医)友愛会、
	インターンシップの分類	10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	例として、IT企業では社内業務で扱っているコミュニケーションツール(Slack)や開発ソフト等を操作して新規事業の企画を行ったり、データの分析や考察にフィードバックを受けて課題解決のプレゼン発表をする等、実際に働いている社員と近い体験を行っている。同様に他の業種でも現場に即した就業体験を通して「求められる能力・スキル」を知り、自身の課題が発見できるプログラムを取り入れている。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している	
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容		
2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年 大学 学部2年	

要素②

	大学 学部3年
	大学 学部4年
	大学 学部5年
	大学 学部6年
	大学院 修士1年
	大学院 修士2年
	大学院 博士1年
	大学院 博士2年
	大学院 博士3年
	短期大学 1年
	短期大学 2年
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細	全学部・全学年対象の共通教育科目・選択科目として、夏季休暇期間中に実施し、2単位付与する。 なお、他大学学生の参加も認めており、単位付与は各参加校で設定されている。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	

要素③

要素③	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	実習中にはコーディネーターが、学生の状況の把握に務め、必要に応じて企業・学生にアドバイスを行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	心構え（インターンシップとは何か・キャリアデザイン・自らを就業人とみなす姿勢を身につける・就業人と学生の違い・ビジネスマナー）、就業人の意識（「7つの習慣」から3つ①主体性を持つ②終わりを考えて始める③重要事項を意識する）の座学と研修日報の作成および3種類（①自己紹介・②企業研究・③SMARTな目標設定）のプレゼン発表をグループワークを通して実施している。 ※新型コロナ禍では、上記プログラムをオンラインでのライブ講義もしくは動画配信を用いて実施している。 ※SMART：Specific（具体的で）、Measurable（推測できる）、Achievable（達成可能な）、Reasonable（意味のある）、Time-Bound（時間設定のある）
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	成果発表会としてポスターセッションを実施している。他社インターンシップに参加した学生達および受入企業の担当者前で発表を行い、実習目標に対する達成度や今後の学生生活、進路についてコメントやアドバイスを受ける。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	学生が実習中にはコーディネーターが、学生の状況の把握に務め、必要に応じて企業・学生にアドバイスを行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	4.その他 受入企業にも評価してもらっている。
4-3.上記回答内容に関する詳細	①課題提出状況、②課題・成果物の内容、③アンケート、④受入れ企業による学生へのフィードバックシートの4点をメインに教育的効果を把握している。	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
		2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
		3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	5日以上（受け入れ先企業による）	

	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前2日 + 実施2日以上 + 事後2日
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	2～3社で実施。1社は2日以上。
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	事前2日 + 実施1～3社 + 事後2日。1社は2日～10日。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容		
6-3.上記回答内容に関する詳細	企業募集時には、「企業情報交換会」を開催し、事例紹介や質疑応答の場を設けており、プログラムは希望や事例を提示して協働して作成している。また、研修においては内容の確認や参加（事後研修）を求め、実習中は学生の日報に対するコメントや「社会人基礎力フィードバックシート」の作成を依頼しており、学生に対する教育的効果の向上に努めている。	
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://tiglon.jim.u-ryukyu.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SyllabusSearchStart.aspx?lct_year=2021&lct_cd=105308001&je_cd=1	
問い合わせ先	大学等名	琉球大学
	担当部署名	学生部 学生支援課 就職係
	担当者役職名	係員
	担当者氏名	野澤 文人
	電話番号	098-895-8118
	メールアドレス	sysykari@acs.u-ryukyu.ac.jp